

# 令和4年度（2022年度）行政評価シート

令和4年7月28日

評価者	都市整備部長 森明彦
-----	------------

## ○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	5-(6) 下水道・河川	施策の方針	5-(6)-②河川の整備・管理
目標とするまちの姿	河川・水路施設の整備等を進め、局所的な集中豪雨や津波遡上等が生じても浸水被害の軽減が図られています。また、水辺は動植物が生息する環境になっています。			
主な取組	(1)河川・水路施設の整備 河川・水路施設の定期的な点検、維持管理を行うとともに、計画的な整備を進め、局所的な集中豪雨等による浸水被害の軽減を図ります。また、河川津波遡上対策について、県と協議を進めます。 (2)水辺環境の創出 河川・水路施設の維持管理では、必要な排水能力に影響がない範囲において、動植物の誘導に配慮するとともに、河川の清掃や生態系の調査及び水質調査等を行う河川維持協力団体とも協働して、潤いのある水辺環境を目指します。			

## 1 成果指標

成果指標①	河川・水路の整備延長					出典	各準用河川改修基本計画		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成30年度	m	目標値	2,784	2,784	2,784	2,784	2,784	2,814	
2,784		実績値	2,784	2,784					
		達成率	100.0%	100.0%					

## 2 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	29,600	82,002				
人件費	14,393	26,120				
総事業費	43,993	108,122				

## 3 担当部評価

### (1)「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

#### 都市整備部

浸水被害の軽減を図るため、河川整備に向けて地権者と用地取得の協議を実施しているが、河川改修の実施に至るまでには用地の取得やそのための補償が必要となり時間を要することから、短期間に増加する指標ではない。

### (2)今後の方向性

#### 都市整備部

河川改修だけでなく、河川・調整池等の浚渫、維持管理のニーズも増加しているため、現状は緊急対応や維持管理の事後保全型の対応に終始している。引き続き、浸水被害の軽減に向け河川整備を進めていくが、河川整備とあわせて、補助金の適用についての調査、法定台帳の整備、維持管理計画や老朽化が進んだ施設の修繕改築計画の策定等についても検討を進めていく必要がある。また、河川維持管理協力団体との連携を継続していく。

**(3) 施策の方針にひもづく事務事業の評価結果**

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	都整-08	河川管理運営事業		1,454	759	2,213	現状維持	A	現状維持
重	都整-22	河川維持補修事業		56,101	16,474	72,575	拡充	A	拡充
	都整-23	雨水施設維持管理事業		24,447	8,887	33,334	拡充	A	拡充

**(4) 貢献度に関する分析**

**都市整備部**

河川管理運営事業は、景観及び生態系に配慮した良好な水辺環境づくりを実現するため、河川維持管理協力団体(4団体)を委嘱しており、これにより河川の愛護意識の普及及び向上に寄与していることから、貢献度を「A」とした。

河川維持補修事業は、河川護岸の崩壊を未然に防ぐこと等により、市民生活の安全確保に貢献していることから、貢献度を「A」とした。

雨水施設維持管理事業は、雨水調整池の良好な状態を保持すること等により、市民生活の安全確保に貢献していることから、貢献度を「A」とした。